

京都の八坂庚申堂



八坂庚申堂

京都の八坂庚申堂は、法観寺のすぐ前にある。 日本最古の庚申堂である。

高台寺や「ねねの道」から非常に近い。

庚申堂とは、庚申信仰にもとづいて建立されたお寺であるが、そもそも、庚申信仰というのが、中国道教の説く「三尸説 (さんしせつ)」をもとに、仏教、特に密教・神道・修験道・呪術的な医学や、日本の民間のさまざまな信仰や習俗などが複雑に絡み合った複合信仰で、一筋縄では説明できない。一筋縄では説明できないのであるが、私なりの説明を書いた論文があるので、ここに紹介しておく。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/yasakasaiko.pdf>

上記論文に書いたが、八坂庚申堂はもともと秦氏の菩提寺であったものである。平安時代に浄蔵がその住職になってから朝廷の支援も得ながら庚申堂としての形を整えてきたものである。

現在は、法観寺に隣接していることもあって、京都の観光名所になっているが、八坂にあるということもあって、祇園花街の人たちの信仰が厚い。

門を入るとすぐのところに、たくさんの「つるし猿」が吊るされている。



私の上の論文とはまた別の論文「[中国伝来文化・三尸の思想](#)」に書いたが、庚申信仰では猿は神（青面金剛）の使者とされ、崇められているのである。

したがって、境内には、入ってすぐのところだけでなく、猿を大変多く見かけるのである。





面白いのは、八坂庚申堂では「くくり猿」がお守りの「お札」として売られていることだ。



「くくり猿」の体内には御本尊青面金剛の御札が納められ、開眼の秘法によって魂が込められている。単なる土産物では無く、八坂庚申堂の神（ご本蔵青面金剛）の霊の入った『御守』である。

この霊験あらたかな「くくり猿」は、祇園界限では軒先に吊るす家が多い。



祇園花街の舞妓さんも八坂庚申堂でこの「くくり猿」を買い求める人が多く、八坂庚申堂では、舞妓さんの姿をよく見かける。

舞妓さんの近くで見るには、八坂庚申堂に出かけると良い。



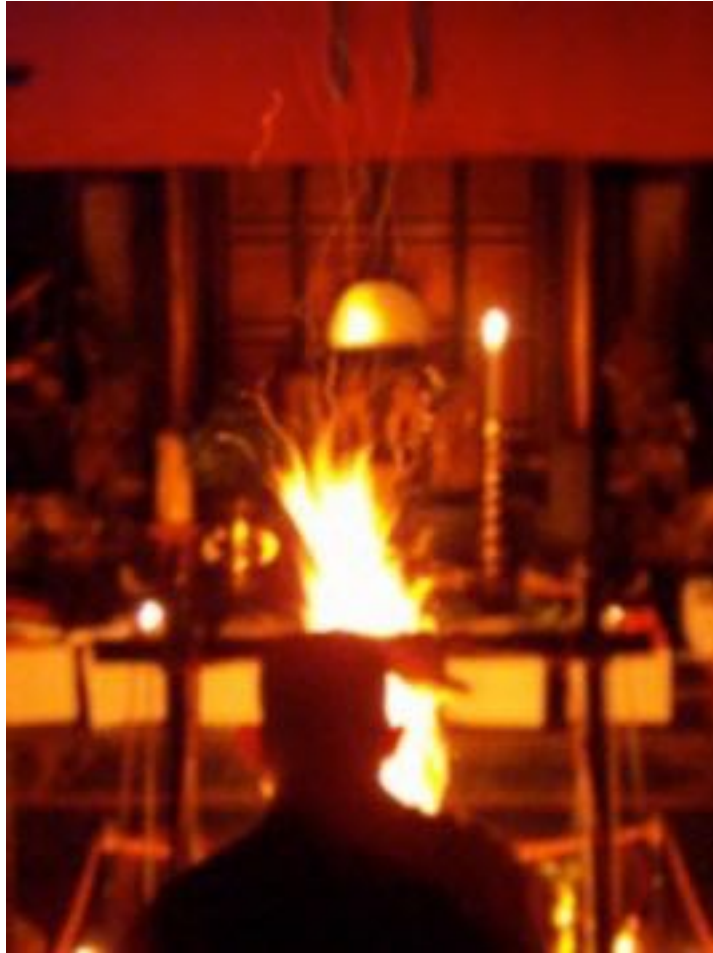


八坂庚申堂の御本尊・青面金剛像は次のとおりである。



(<http://www.geocities.jp/yasakakousinndou/honzon.htm> による)

八坂庚申堂では、庚申の日（一年に6回ある特別の日）に、住職は本尊・青面金剛に一晩中寝ないで祈りを捧げる、いわゆる庚申待ちの儀式を行なっておられる。



庚申の日は、一晩中本堂が開いているので、一般の人でも本堂に上がって、本尊・青面金剛を拝むことができる。そうされる方もおられるようだ。



(公式HP：<http://www.geocities.jp/yasakakousinndou/> より)